

国指定重要文化財

朝日町常盤 佐竹家住宅

鈴木治郎



佐竹家住宅（国指定重要文化財・夏草）

佐竹家住宅は、最上川を臨んだ夏草の高台にある。東に五百川（宮宿）の盆地と最上の溪流を眺望し、西に前まで湖沼を控えた絶景の地に位置する。この高台に、八八坪（二九一・五㎡）の大屋敷を持ち、庭園に竹林を構え、建坪七六坪（二五一・二㎡）の住宅が最上の流れに面して建築されてい

る。

桁行二四・八m、梁間一二・八m、寄棟造、茅葺。間取りは変形田字型の構造を持つ住宅である。

構造上の特徴として、土間で桁行に長大な「うまや梁」を通し、中間の柱を抜くなど、進んだ構架法がとられている。さらに中央の土間境上の「さす」は、さす束で支えているのがみられる。これは積雪の荷重に対し梁間が広すぎる故か。

西五百川郷に、一石榑組（八ヶ村）の大庄屋を務めた佐竹長右衛門家があり、宝永・正徳（一七〇四〜一五）のころから代々大庄屋を務めると共に、米沢藩が最上川舟運を利用する際、五百川溪谷の難所に御通船差配役をおいたが、長右衛門が任命された家柄である。三代目長右衛門が、享保十七年（一七三二）一石榑大庄屋のまま夏草に新宅をかまえ引っ越した。その八年後にあたる元文四年（一

七三九）十一月九日、類焼により焼失し、その直後に再建されたのが現存している住宅である。

佐竹家住宅は、内陸部における上層農家の遺例として保存がよく、建立年代も明らかであることから、昭和四十四年十二月十八日、重要文化財に指定された。